

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	3870800301		
法人名	医療法人 緊愛会		
事業所名	グループホームいしかわ		
所在地	愛媛県四国中央市上分町8 6 1 番地 2 0 (電話)0896-58-0065		
管理者	青木由美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年5月29日	評価確定日	平成19年7月19日

【情報提供票より】 (平成19年5月11日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 15人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	140 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	昼食代に含む 円
	または1日当たり 円			

(3) 利用者の概要 (5月11日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	77歳	最高	96歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり (なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり (なし)	短期利用型共同生活介護
加算 あり (なし)	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは四季折々の自然に触れ合うことのできる静かな山間部にあり、建物の2階部分にある。1階は母体病院等の職員用の保育所で、月2回子どもたちとの交流があり、利用者も楽しみにしている。開設から4年目に入り、利用者と職員が落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごしている。ホームでは利用者の排泄の自立に向けての取り組みが積極的で、成果を挙げている。そのことは利用者の自信にも繋がり、皆、表情がいきいきして笑顔が多く見られる。この笑顔を絶やさないよう、インフルエンザ等の流行時には、面会者にうがい、手洗いをしてもらい、せきをしている時にはマスクを着用してもらおう等感染症予防に努めたり、筋力の低下防止のために運動を取り入れたりして、入院は極力避けるよう配慮している。また、利用者の思いを常に大事にし、家族に会いたいという希望については、面会に来てもらうよう電話をしたり、利用者と一緒にはがきを書いて出すなど、家族の面会を促している。帰宅願望についても、自宅を訪問する等出来るだけ利用者の気持ちを尊重する支援をしている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
成年後見人制度についての勉強会を開き、ホーム内外の研修に参加することで職員の育成に取り組んでいる。防災対応マニュアルを作成し、災害に備えている。また、地域のボランティアの受け入れ、公民館長を通じて地域行事への参加等、地域とのつながりにも前向きに取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員全員で項目をピックアップし、ホームがしていることを書き出して、それをユニットごとに責任者がまとめ、管理者が仕上げ、再度、職員全員に確認を取ってから作り上げている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
ホームの理念や運営について情報提供し、理解を得ている。また、利用者の声を聴いてもらい、利用者のことを知ってもらっている。メンバーの公民館長からは、地域行事に誘ってもらい、地域との繋がりもできつつある。任期を1年とし、今年度は地域の消防団の方にもメンバーに加わってもらい、地域の輪を広げている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
年2回家族会を開き、面会も頻繁にあるため、その都度利用者の近況について報告している。その際、家族と話し合い、意見や要望を出しやすい雰囲気をつくっている。また、家族からの意見等については、職員会やカンファレンスで検討し、サービスの改善に活かしている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
盆踊りやお祭り等の地域行事には、利用者と共に積極的に参加している。ホームに地域のボランティアが、コーラスやエレクトーン演奏、紙芝居をしに訪れ、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしている。ふれあいサロンにも参加し、地域の方と活動を共にしている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)
氏名 青木由美

評価完了日 19 年 5月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「地域と共に」の理念を生かしその人らしく個人の尊厳を大切にしている。 (外部評価) 母体病院の理念である「地域と共に」を踏まえ、地域の中でその人らしく生活できるよう、利用者の尊厳や思いを大切にしたい支援に重点を置き、ホーム独自の「ゆっくり」「楽しく」「いっしょに」という具体的な理念を作り上げている。	※	地域交流を深める為に外出機会を増やすことをGHの年間目標にしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) PC利用にて、トップの朝礼の言葉を職員全員で共有すると共に、GHでも、職場の教養を共に音読している。 (外部評価) 朝礼時に運営者の言葉を全職員で共有し、理念に基づき、利用者のペースを尊重した、心に寄り添う支援をしている。	※	朝礼時、職員の3分間スピーチを取り入れたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 面会時にご家族には最近の状況を伝えている。月一回の請求書送付の際にも近況を報告させていただいている。又、ホーム便りの発行、ふれあいサロンへの参加により地域の方へも理解を求めている。	※	地域の集まりに参加し、利用者との交流を深めたい。地区運動会へ見学に行ったりフリーマーケット等を行いもっと利用者様を知っていただきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 市街地より離れた山間にあり、玄関掃除時にお遍路さんにお茶を飲んでいただいたり、荷物を預かったりしている。水道検針の方が来られた際には利用者様とお話していただいている。		買い物の際には、挨拶をしたり地域の人達とふれあう機会を作っている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊り、お祭り等には利用者様と共に積極的に参加している。又、ボランティアのコーラスの方やエレクトーン演奏等少しずつではあるが、交流機会を作っている。 (外部評価) 地域行事やふれあいサロンへの参加、地域のボランティアの訪問により少しずつ交流の機会を増やしているが、周囲に住宅が少なく、活発な交流にまでは至っていない。	※	サロンには利用者様が全員参加できるよう努力したい。 ※ ホームで計画している夏祭りのフリーマーケットや、学校・幼稚園の運動会への参加等、交流の場を増やしていくこと、合わせて自治会への加入の検討も期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のサロンでの認知症の理解や啓発に努めている。		事業所での成果を知って頂く為に院内学会で研究発表を行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義を職員会でも話し合い全員で取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価は、ホームで実践していることを職員に書き出してもらい、ユニットごとに責任者がまとめ、さらに職員に確認を取っている。外部評価を受け、改善に取り組んでいるが、改善計画は立てていない。	※	業務改善を毎月行い、サービスの質の向上に努めている。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況を報告すると共に利用者様の声も聞いていただき助言を頂きながら、サービスの質の確保に努めている。 (外部評価) 運営推進会議では、ホームを知ってもらうために活動状況等の情報を提供している。メンバーの公民館長から地域行事の案内を受け、地域交流の起点となっている。	※	地域の理解と支援を得る為には、重要であるが昨年から、開催されたばかりで活発な活動とはまだなっていない。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険更新時には、利用者様もいっしょに手続きに行き市担当窓口職員とも触れていただいている。 (外部評価) 介護相談員が月1回訪れ、利用者として話を聴き、助言している。それらを受けて、より利用者の意向に沿えるよう、サービスの質の向上に繋げている。	※	認知症の方の理解をして頂く為に、市役所への用事の際には、利用者様も同伴し実施している。今後も続けたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開き職員の理解を深めようとしている。又、県主催の研修会やGH連絡協議会主催の研修にも参加している。しかし、職員全員が理解され、支援できる体制までは至っていない。		対応が必要と思われる家族には説明したが利用にはいたっていない。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会への参加と朝礼時や夜勤報告時に潜在していることはないか、各フロアごとに報告を受けている。	※	職員会でも介護目標をみんなで読み上げ、常に介護の原点を忘れないよう考える機会をつくり遵守に向けた取り組みを努力している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学へ来ていただいたり、体験入居等を行うなど、契約の際には、ご家族にもゆっくりと理解していただき納得を得た上で同意をえるようにしている。		利用者様のご家族の立場になり見学時より、十分な説明を行っている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月一回介護相談員の方に来ていただき、入居者様の言葉や態度を見ていただき生の声を出しやすい機会を作っている。		病院受診、墓参り、散歩と利用者様と一緒にいる機会をつくり本当の声を聞く時間をつくっている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月請求書の中に近況状況を報告したり、面会時に状況をお伝えしている。面会が遠のく場合は、電話で連絡を取ったりしている。 (外部評価) 面会時に利用者の近況をその都度報告している。また、面会が少ない場合は電話をかけたり利用者と一緒にはがきを書いたりして連絡している。さらに、請求時に手紙を入れて利用者の様子を知らせている。「ホーム便り」も年4回発行している。	※	相手に温もりが伝わるように直筆の手紙を書いて同封したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員の研修参加によりサービスに少しでも反映できるよう、面会者のデーターをとり、より多くの方にも来てもらえ要望や意見の出しやすい雰囲気に取り組んでいる。 (外部評価) 面会時に意見や要望を出してもらっている。重要事項説明書に苦情の受付窓口を、ホーム内と第三者委員に分けて明記している。また、苦情受付ボックスも設置している。家族から出された要望は職員会等で検討し対応している。	※	一ヶ月毎に面会者状況のデーター集計をしグループホームの面会利用を知って頂いている。面会時に出席された意見、要望はカンファレンスや職員会の時に検討している。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見を出しやすいようにBS法を利用して皆の意見を聞くように気をつけている。不満や苦情は言いがたいのでPCでのメールを使用できるようにしている。	※	半期毎に業務能力適格性評価シートにて自己評価と部署長評価を行っているが全員と面談をもうけることがまだ出来ていないので、日頃から、聞きやすい雰囲気にして行きたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 2ユニットある為、管理者は状況に応じた対応が出来るように通常のシフトになるべく入れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係づくりに取り組んでいたが、開設4年目となり職員の離職の原因にも人間関係があった為、異動をおこなってみた。 (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大事にしているが、やむを得ず異動することもあり、利用者へのダメージを防ぐため、ユニット間を移動したり、一緒にいる時間を長くしたりして利用者が気分転換できるよう支援している。	※	夜勤時、両フロアで応援したり各勤務中にフロアの利用者がお互いを行き来している為、職員にも少しは、挨拶を交わしたり言葉がけなどもできている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修参加後は、職員会で必ず伝達講習をおこない皆が受講できなくても報告の機会を作っている。資料作成もしていただき教育内容の有効性評価も行っている。 (外部評価) 管理者が職員の資格取得のために問題を作成する等支援している。また、職員は研修情報を見て希望する外部研修に参加し、職員会で伝達講習し全職員で研修内容を共有している。		研修情報は、出勤簿のところに掲示案内し管理者からも職員の経験や習熟度の段階により声掛けし研修参加をしているが職員の研修プログラムはまだ完成していない。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県GH連絡協議会に入会し研修などには参加し事業者同士協同しながら質の向上に励んでいる。しかし、交流会等の実施は出来ていない。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加している。情報交換はしているが、悩みを相談する等の時間は持っていない。	※	地域のグループホームと交流会を検討中ではあるが、まだ実施されていない。 近隣ホームとの交流会を開き、悩みを相談したり、より良いサービスについて話し合ったりする機会を設ける予定であるため、今後の交流に期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務中少しではあるが、利用者様と離れ雑誌や本を読む休憩室をつくっている。	※	院内でのレク活動はあるが、他事業所との親睦会は実施できていない。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 開設4年目となり、職員の資格取得に向けた支援を行っている。	※	取得後は本人の意向を重視しながら活かせる環境作りに努めるよう努力している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学时、ご家族と相談の上体験入居を半日から実施し、不安を解除しながら職員が受け入れられるような関係作りに努めている。		入居前の生活状態を把握する為、家を訪問させていただいたり、通所サービスなどを利用している時は、見学するなど事前情報をしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) あくまでも見学から来所していただき、訪問からすぐ入居とはしていない。又、雰囲気や家族の思いをしっかりと伺える時間をとっている。		他の事業所への紹介も行いご家族、利用者様自身の思いを大切に家族が求めている所か確認して関係作りに努めている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談の上、ご家族の要望や早急な対応が必要であるのか判断し対応を行っている。	※	相談時、利用者様やご家族の必要とされている支援を確認し、MSWや担当ケアマネと連携をとっている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学を兼ね入居者とお茶を飲んでいただいたり、担当のケアマネとも何度か情報交換を行い、ご家族も納得され安心して利用できるように心掛けている。 (外部評価) 入居希望者に見学に来てもらっている。さらに、1～2日の体験入居により徐々に馴染めるよう配慮している。	※	見学の際は、担当のケアマネやご家族、サービス利用者は利用サービス職員等もいっしょに見学して頂いている。やむを得ず利用となつた場合は、慣れるまでご家族に面会に来ていただいたり、以前利用のあったサービス提供職員にもきて頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、人生の先輩として敬い利用者の出来ること大切に場面ごとに、生活の場の中に入れて生活している。 (外部評価) 料理や掃除等を一緒にしながら、利用者から味付け等教えてもらっている。利用者それぞれの人生観、昔の話や歌を聴き、共感している。	※	若い職員等は巻き寿司がきれいにできず台所で困っていると、必ず利用者が手伝い教えてくれる。この気持ちを大切により関係を築いて行きたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会等で来て頂いた時に利用者といっしょに作ったおやつを食べていただいたり、夜間の利用者の状況などお伝えしている。		利用者様のご家族の方への思いを大切に職員もご家族と同じような思いで支援して行く関係を築きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族の都合や利用者様の思いを伝え、外出や外泊をによりご家族と一緒に過ごすこともされている。中には旅行もされているご家族もある。	※	年賀状は、利用者様からご家族へ送っている。字が書けない人は、ちぎりえや塗り絵など何らかの工夫によりご家族へ送っているが高齢化となって来ているだけに現状維持が心配される。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎日墓参りへ出かけたり、行きつけの美容室を利用されたりと利用者の生活習慣を尊重している。	※	地元のサロンへ出かけたり、知人の面会があったりと馴染みの関係を大切にし、時には職員と一緒に地元のドライブを楽しまれる。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 畳ベンチを置いたり、ソファを置くなど、利用者同士の関係が持てるようフロア内の環境作りを工夫している。		食事やお茶の時は、会話を取りやすいように机の配置を工夫したり、お互いの役割も忘れずテーブルごとに参加しやすい雰囲気に気をつけている。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 遠方へ移られた方は、手紙のやり取りにて近況報告をしている。近くの老健へ入所された方は、面会へ出かけたりしている。	※	行事毎には、ご家族の方にもお誘いの連絡をし、一緒に参加している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様とのかかわりの中で、言葉や表情から悟ったり、会話の中から真意を推し測ったりしながら、確認をするようにしている。 (外部評価) 介護相談員に来てもらったり、利用者と一緒に外出する機会に利用者の思いを会話の中から把握している。帰宅願望がある利用者と共に自宅訪問した時には、庭の草や柿の木が気になっていたと喜ばれたこともある。	※	一部の意見や考え方で決め付けぬよう職員全員が利用者様の思いや意向を把握しようと努力している。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時や以前利用されたサービス担当者からも少しずつ把握している。本人の前では決して聞くようなことはしていない。	※	ご家族だけではなく、関わってきていただいた方にも協力をお願いし情報をいただいている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者様の安心と安全を保ち支援していくように努めているが、出来る能力を衰えさせぬよう気をつけている。		わからないと決め付けず、一緒に行動しその中から感じ取るように利用者様のその人らしさを追及している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様には、日々のかかわりの中で思いや意見を確認したり、ご家族の方には来所時や面会時に反映させるようにしている。 (外部評価) 利用者からは暮らしの中で希望を聞き、家族等からは面会時に話し合い、利用者一人ひとりに合った介護計画を全職員で意見交換しながら作成している。	※	ケースカンファレンスは職員全員で意見交換をしているが、ご家族にも参加できるようなカンファレンスを今後検討したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 利用者様の状況変化に伴ない見直しを臨機応変に行い、ご家族の要望が変わった場合も見直し検討している。 (外部評価) 月1回介護計画の評価を全職員で行い、見直している。また、状態変化や家族の要望に応じても随時見直している。利用者の個別記録に事実のみを記入するのではなく、状態変化の原因等についても記述し、見直しに役立てている。	※	利用者様やご家族の要望を確認しているが、高齢でもあり、予防を考え対応することも必要と検討中である。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様の個別の処遇記録に記載し情報共有している。又、これを基に見直し評価につなげている。	※	処遇記録を状況・対応・結果と記載を実施して来たが、介護計画に沿ったケアの実践につなげる様勉強会を実施し記載方法を変えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者様の支援はもとより、状況に応じた対応が出来、満足をもてるよう努力している。 (外部評価) 通院介助や墓参り、ふれあいサロンに同行する等利用者の個々の要望に応じて支援している。		個別の墓参りや病院への受診への援助を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者様が安心して暮らし続けられるよう民生委員、公民館、消防等協力を呼びかけている。	※	警察の方とは、未だ意見交換をする機会を設けていない為、今後検討必要である。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者様もお弁当を取ったり、うどんを食べに外出したりと希望に応じて、支援を行っている。		サロンへの参加は行っているが、インフォーマルな生活支援は出来ていない。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されたが、まだ関係は強化できていない。	※	会議の参加だけで、情報交換はできていない。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院であるが、ご家族の希望される病院へ受診されている。 (外部評価) 利用者や家族等の希望するかかりつけ医を受診しており、家族と協力しながら通院介助している。投薬等のため月1回受診しているが、結果は受診記録にまとめ、受診時の利用者の言葉等も記載している。		ご家族と相談し受診時通院が必要な場合は援助している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 入居当初より、診察されている医師に相談している。		母体の病院の医師が、開設当初より診察を継続して下さっている。予防注射なども実施していただいている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態把握に留意している。		看護職員が不在の時は、携帯での指示を介護職員に行っている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時、早めに医師とご家族と相談し可能な限り、早めの退院としている。		環境を変えてしまうと利用者も大変なので、頻繁に見舞いに行ったりしている。昨年は入院は2名だけであった。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 事業所内では、どう対応するのか方向性を定めている。 (外部評価) 看取りの指針を決め、運営者と全職員で共有しているが、利用者及び家族等と方針についての具体的な話し合いには至っていない。	※ ※	高齢であり、今後きちんと意志確認書を作成したい。 職員の看取り介護の技量を高め、利用者や家族の意向を確認した上で、終末期に向けた方針を明確にしておくことが望まれる。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 急変時すぐに対応して頂けるよう、医療機関とも連携をとっている。	※	ご家族の意向をきちんと確認したい。母体が病院の為、ご家族は安心されている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 在宅へ帰る際には、外泊やケアマネとも情報交換し連携を心がけた。		在宅での利用サービス担当者とともにカンファレンスを行い、介護の継続性の援助を実施してみた。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員の意識付けも大切にし、利用者様の誇りやプライバシーを傷つけない対応に各フロアのリーダーが確認を実施している。 (外部評価) 職員は、利用者は人生の先輩であるという気持ちを持って、丁寧な言葉かけをしており、トイレ誘導もさりげなく行っている。		トイレ誘導もさりげない言葉かけによりケアを実施している。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 誕生日には、利用者様にお好みメニューを確認し自分で決めている。		食事時にも牛乳、お茶、緑茶、コーヒーと好きな飲み物を頂いている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行事参加は自由意志とし、フロアー、居室等日中も各自のペースで過ごしている。 (外部評価) 時間的に夕食準備頃不穏になることが多いが、業務を優先するのではなく、利用者の気分転換を図ることを優先している。		食事時間も欲しくない時は、お腹の空いた時に摂取していただいている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の習慣に合わせ衣服は調整していただいている。化粧やマニキュア等も楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの美容室へも外出している。		着替えは各自がコーディネートしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と共に野菜切り、調理、盛り付け、片付け等個々が参加しやすいように声掛けしながら、楽しい食事作りの雰囲気作りを大切にしている。 (外部評価) 食事の準備、盛り付け、後片付け等利用者と一緒にしている。食事中は、食事の準備に対する感謝の言葉かけや料理についての会話を楽しんでいる。一方のユニットでは、朝食に洋食を希望する利用者があるため、和食と洋食を選択できるようにしている。		時にお弁当を配達していただき、目先の食事の変化をつけている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 馴染みの嗜好品を取り入れるよう夜に飲んで頂いたり、季節時に梅酒や山イチゴ酒杏酒をつけて夕食時楽しんでいる。	※	タバコを吸う人は利用者の中にはいらっしゃらないので、今後検討する。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、失敗してもオムツをつけない。		ご家族にもお願いし、着替えを多めに用意していただいている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決まわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望があればいつでも入浴できる様に対応している。 (外部評価) 家庭的な浴槽で、身体機能の低下を補うよう手摺りが付けられている。基本的には週3回であるが、美容院でカットした時など、入浴希望があればいつでも入浴できる。入浴日でないときも他ユニットの浴室を利用する等臨機応変に対応している。		仲の良い方同士で、一緒に入浴される時もある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の面会や外出等個別の状況に応じ配茶やマッサージなど工夫をしている。	※	寝つきが悪い時は、添い寝をしたり足浴を行うなど、個々に応じた対応をとっている。今後フットケアを取り入れたい。
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 長年の経験を生かし、餅つき、干し柿作り、かまこ作り、らっきょ漬けなど個々の力を発揮できる場面作りをし、日頃から感謝の言葉がけを忘れない。 (外部評価) フラワーアレンジメント、漢字ドリル等その人の能力や興味に応じてレクリエーションを楽しんでいる。また、経験を活かして巻き寿司や餅つき等の行事などでも活躍の場面がある。	※	それぞれの場面で、その人らしい姿があり面会時や家族会、お便り等でご家族と共に喜びを分かち合っている。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族よりお金を預かり、買い物時は自分で支払いを出来るようお金を手渡している。		移動パン屋の来所時、利用者様が選んで好みのパンを購入したり、受診時会計したりとできることを忘れさせず、頑張っている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩やドライブ、六地蔵参り、周辺散策等天候と利用者様の状態を確認し屋外への外出に努めている。 (外部評価) ホームの前は坂道であるが、筋力低下防止のため散歩に出かけ、近所でつくし取りや栗拾い等自然に触れ合っている。また、車で買い物に出かけたり墓参りに行ったりしている。	※	西峠へ散歩に行ったり、自宅へ帰ったり買い物へ出かけ心身の活性につながるよう努力している。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と相談し利用者の思いを実現に結びつけるよう努力している。		温泉旅行や孫の開店祝いと外出と体調を見ながら、医師にも外泊確認をとりご家族等と相談しながら計画を実現している。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 遠方の家族へ電話をかけたリ、毎年賀状をご家族へ送る等、利用者様の希望を支援している。	※	手紙がかけない時は、差出人の名前やちぎり絵をして工夫するなど出せるような支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間は定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のよい時間に訪ねて頂ける様な配慮を行っている。	※	他の利用者に気兼ねなく訪問できるスペースを作り、気軽に来やすい雰囲気作りに心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の理解を深める為に、研修会や職員会での勉強会、新聞記事の記載を朝礼時に読み上げたりし職員で共有認識を図っている。	※	何が身体拘束につながるか、カンファレンスや日々の申し送り時に各自のケアを顧みている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけていない。夜間は、防犯の為施錠しているが、連絡すれば訪問することができる。 (外部評価) 日中は鍵をかけていない。利用者の外出は、両ユニットの玄関が中央の事務室から見えるため常に把握でき、声かけをして同行している。夜間は防犯のため施錠している。		利用者様が外出しそうな時は、止めず一緒に声かけし外出する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) カウンターより入居者様のお部屋は見えるようになっている。		夜間は2時間毎に利用者様の様子を見守っている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 全てを取り除くのではなく、利用者様の状況に応じたケースの対応をとっている。又、カッター等の物はフロアの机の中に保管している。		裁縫道具やはさみは、入居者様のお部屋で使用されている。個人管理である。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々、業務上ヒヤリハットを記録し職員間の共有認識を図っている。職員会での報告や院内のリスクマネジメント委員会にも参加され事故防止にも取り組んでいる。		PCにヒヤリハット報告を載せ、職員も予想される危険の検討や未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急蘇生法を入職時、実施している。	※	定期的な訓練で活かせる技術を身に付けさせるよう勉強会を計画中である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアル作成し火災訓練は、年2回実施している。 (外部評価) 災害対応マニュアルを作成し、年2回昼と夜の想定で火災時の避難訓練を実施している。防火袋に非常食等を入れ、用意している。また、非常時には近隣の関連施設の応援を頼んでいる。地震や水害時の避難訓練はまだ実施していない。	※	地震を想定した訓練は、できていない。 地震や水害時の避難訓練も、いざという時のために実施しておくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 日常生活行動は利用者様本人の意思で自由に活動している。表情も穏やかで面会時間も自由な為、いつでもご家族に見てもらっている。	※	行動制限をしてしまうと、その人らしさを失う事にもなりかねない為、面会時にも予想されるリスクは説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) カンファレンスにより普段の状況を職員は把握しており、処遇記録にも状況・観察点根拠・対応・結果と記録しており、異常時は速やかに医療受診につなげている。		両フロアーの職員が各勤務帯でお互いの情報の共有をはかり事業者日誌へ記載している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬表をファイルに整理し職員が内容を確認しやすいようにしている。服薬時は、本人に手渡し内服の確認を行い服薬チェック表に配薬者のサインを記載している。毎食後、テーブルの下に薬が落ちていないかも配薬者が確認している。		配薬量が変更になった場合は、受診記録を参考にさせていただき職員の確認サインを記載している。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材の工夫や水分チェック表により摂取状況の把握に努め、調理にも食べやすい工夫をしフロアーではミネレクの実施、又毎朝体操を行う等運動も行っている。		寒天ゼリー、ゼラチンをおやつに作り、繊維質の多い食材と果物を採り入れている。又、散歩や家事活動、レク等の参加により排便できるよう工夫している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを行い能力により不可能な方は、職員の介助にて実施されている。又、義歯の消毒や歯ブラシの消毒等清潔保持に留意している。		歯磨きが難しく、うがいの出来にくい利用者へはお茶を利用し口腔内のケアを支援している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的に医師にも相談し、水分チェック表を利用し個別の摂取量を把握し、栄養面では、管理栄養士の献立により専門的なチェックを行って頂いている。 (外部評価) 関連病院の管理栄養士が献立を立てているため、栄養バランスは良い。水分確保に留意し、水分摂取量は細かくチェック表に記載し、食事の際にもお茶のお代わりを勧めている。	※	食事内容・残渣量は、事業所日誌に記録され食事中の水分の噎せがある場合は、ゼラチンや寒天を使用し工夫を実施している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症情報は、保健所とPCで配信し常に情報確認を行っている。朝礼時や職員へのメール職員会等連絡を確実にし早期対策をとり勉強会を行う等感染対策に努めている。	※	利用者へは食事前のうがい手洗いの励行やインフルエンザ予防注射の実施と職員共に予防に留意して来た。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板・布巾等は毎晩漂白し、冷蔵庫の掃除・点検も実施し清潔・衛生に心がけている。食材の納品時の温度と調理時の温度を検温している。		食品温度記録表を活用し日々の衛生管理には留意している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花や鉢植えを置き、表札はよく見え落ち着いた雰囲気を出している。		入り口には手作りの看板やプランターを置いて季節感を感じられるようにしている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの花をテーブルに飾ったり、フローアから台所を見えやすい環境作りをするなど工夫している。 (外部評価) 台所は南側に面し、明るく作業しやすい。吹き抜け部分には家族の協力を得て花壇が作られ、巣箱には野鳥がやってくる。廊下は広く、押し車や車いすが楽に移動できる。視界を遮らない家具の配置で、安全確認しやすい。季節の花が多く飾られている。		食事の際は、馴染みの汁椀を使用したりコーヒーのカップも使い慣れたものを使用させていただいている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各所にベンチやソファ等を設け自由に利用している。見えそうで、見えない隠れたスペースも作り配慮している。		廊下やフローアには、絵や写真を飾り椅子や畳ベンチ、お茶と自由に居場所作りをしている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや仏壇、テレビ等を設置し馴染みの物を設置している。 (外部評価) 神棚、箆笥、パイプハンガー、テレビ、歌手のポスター、利用者の似顔絵、家族の写真等それぞれの利用者が、思い思いの居心地の良い居室をつくっている。また、居室の前には木製の表札が掛けられている。		好きな歌手のポスターや家族との写真を飾る方もおられる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気には常時配慮して、窓の開閉、換気扇の利用を行っている。エアコンは常に利用者の様子を見て調節している。		喘息などの既往のある利用者は、冬場の湿度は加湿器を利用し調整される方もおられる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 食事の際には、座高を考慮しテーブルや椅子の高さに気をつけ座布団などでも調整している。フローにも利用者の状態に合わせた椅子を置いている。		トイレ・浴室・廊下には手すりをつけ足元が不安定な方への安全確保を配慮している。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 洗面所・トイレなどは、表示板を工夫して作成し戸惑いを起こさない様になっている。		掃除には、ほうきやちりとりを使用したり、バケツ雑巾などを利用し行っている。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先に花を植えたり、ベンチで休憩を取れるよう工夫したり、畑を耕したりと馴染みの暮らしを活かした環境作りを行っている。		フロー中央に庭を造り、巣箱や野菜・お花を作り自然にもふれて頂ける様工夫している。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	完全には理解できていないし、本当にそう思われているのかもわからない。しかし、日々コミュニケーション・スキンシップと共にされ、理解しようと努力はしている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	お茶の時間やおやつ時間、食事を同じテーブルで和やかに過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居室は、各個室を設け廊下には畳ベンチやリビングにはソファや個人の馴染みの椅子を置くなど好きな場所で、自由に過ごすことが出来ている。又、何事も強制せず、利用者の自己決定を尊重している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居当初は、表情も陰しかったが穏やかになり家族の方も良い表情になったと喜ばれている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	年齢と共に、下肢の筋力の衰えも見られるが車を利用したり、体力と不穏の状況でなるべく出かけるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	母体が病院である為、体調が悪くなるとすぐに受診が可能である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常の会話の中で、テレビ番組・外出先・食べたい物等の聞く場面を作っている。建物の2階なので、外出しやすいとは言えないが、玄関にベンチを設置したり、手すりを付けて安全対策をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会は自由であり、訪問の際には最近の状況をお伝えしている。一緒にお茶を飲んでいただいたりゆったり過ごしていただいている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	ボランティアのコーラスやエレクトーンの演奏など来て頂いたり、サロンへの参加を行ったり、支援事業所のケアマネの面会がある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 <u>2</u> 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くない	地域での催し物がある時は、声掛けをしていただいたり、参加できそうな事がある時は、案内のパンフレットを頂くこともある。納品業者が来所されても、フロア内へ荷物を運んでくれたりお茶を飲んで帰って頂くなど、以前よりはフロア内へ足を運んでくれるようになった。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 <u>2</u> 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	研修への参加の偏りにならぬ様、研修計画書はないが参加実績をみて参加の予定を立てている。他事業所との職員の交流は計画中だが、実施は出来ていない。職員とのコミュニケーションにも気をつけているが、会議などでも誰もが意見を言えるように司会をローテーションしたりと工夫している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 <u>2</u> 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の顔を見ていただいたら、わかると思うが本当にゆったりと過ごされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 <u>2</u> 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	職員は利用者様個々を尊重し、誇りを大切にしている。言葉掛けや対応、態度にはきちんと対応している。苦情報告も今のところない。面会も毎日見られる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

「その人らしい生活」を送る為には、食事・睡眠・排泄等の基本的欲求が満たされていることが必要不可欠であり、これらに関与する混乱を克服することが解決の第一歩と考えられます。

私たちグループホームいしかわでは、利用者様の個別の排泄パターンを確立する為に、水分チェック表・排泄チェック表を利用することにより排泄パターンを確立しオムツをなるべく使用しないように職員一同取り組んでいます。

コミュニケーションの取り難い利用者様もおられますが、個別の処遇記録を生かして、並みならぬ根気と優しさをもってかかわりを持続しています。ケアする者のあきらめのない気持ちを維持し「その人らしい生活」を日々追及しております。

尚、認知の進行を遅らせる為にも併設の保育所園児との交流も取り組んで来所していただいたらお解かりとは思いますが素敵な笑顔でいっぱいです。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)
氏名 青木由美

評価完了日 19 年 5月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「地域と共に」の理念を生かしその人らしく個人の尊厳を大切にしている。 (外部評価) 母体病院の理念である「地域と共に」を踏まえ、地域の中でその人らしく生活できるよう、利用者の尊厳や思いを大切にしたい支援に重点を置き、ホーム独自の「ゆっくり」「楽しく」「いっしょに」という具体的な理念を作り上げている。	※	地域交流を深める為に外出機会を増やすことをGHの年間目標にしている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) PC利用にて、トップの朝礼の言葉を職員全員で共有すると共に、GHでも、職場の教養を共に音読している。 (外部評価) 朝礼時に運営者の言葉を全職員で共有し、理念に基づき、利用者のペースを尊重した、心に寄り添う支援をしている。	※	朝礼時、職員の3分間スピーチを取り入れたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 面会時にご家族には最近の状況を伝えている。月一回の請求書送付の際にも近況を報告させていただいている。又、ホーム便りの発行、ふれあいサロンへの参加により地域の方へも理解を求めている。	※	地域の集まりに参加し、利用者との交流を深めたい。地区運動会へ見学に行ったりフリーマーケット等を行いもっと利用者様を知っていただきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 市街地より離れた山間にあり、玄関掃除時にお遍路さんにお茶を飲んでいただいたり、荷物を預かったりしている。水道検針の方が来られた際には利用者様とお話していただいている。		買い物の際には、挨拶をしたり地域の人達とふれあう機会を作っている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊り、お祭り等には利用者様と共に積極的に参加している。又、ボランティアのコーラスの方やエレクトーン演奏等少しずつではあるが、交流機会を作っている。 (外部評価) 地域行事やふれあいサロンへの参加、地域のボランティアの訪問により少しずつ交流の機会を増やしているが、周囲に住宅が少なく、活発な交流にまでは至っていない。	※	サロンには利用者様が全員参加できるよう努力したい。 ※ ホームで計画している夏祭りのフリーマーケットや、学校・幼稚園の運動会への参加等、交流の場を増やしていくこと、合わせて自治会への加入の検討も期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のサロンでの認知症の理解や啓発に努めている。		事業所での成果を知って頂く為に院内学会で研究発表を行っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義を職員会でも話し合い全員で取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価は、ホームで実践していることを職員に書き出してもらい、ユニットごとに責任者がまとめ、さらに職員に確認を取っている。外部評価を受け、改善に取り組んでいるが、改善計画は立てていない。	※	業務改善を毎月行い、サービスの質の向上に努めている。 自己評価と外部評価を活かして、今後改善していく順序や時期などを具体的に決めた改善計画を立て、全職員がそれを共有し、改善に役立てることを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況を報告すると共に利用者様の声も聞いていただき助言を頂きながら、サービスの質の確保に努めている。 (外部評価) 運営推進会議では、ホームを知ってもらうために活動状況等の情報を提供している。メンバーの公民館長から地域行事の案内を受け、地域交流の起点となっている。	※	地域の理解と支援を得る為には、重要であるが昨年から、開催されたばかりで活発な活動とはまだなっていない。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険更新時には、利用者様もいっしょに手続きに行き市担当窓口職員とも触れていただいている。 (外部評価) 介護相談員が月1回訪れ、利用者と話して要望等を聴き、助言している。それらを受けて、より利用者の意向に沿えるよう、サービスの質の向上に繋げている。	※	認知症の方の理解をして頂く為に、市役所への用事の際には、利用者様も同伴し実施している。今後も続けたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開き職員の理解を深めようとしている。又、県主催の研修会やGH連絡協議会主催の研修にも参加している。しかし、職員全員が理解され、支援できる体制までは至っていない。		対応が必要に思われる家族には説明したが利用にはいたっていない。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会への参加と朝礼時や夜勤報告時に潜在していることはないか、各フロアごとに報告を受けている。	※	職員会でも介護目標をみんなで読み上げ、常に介護の原点を忘れないよう考える機会をつくり遵守に向けた取り組みを努力している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学へ来ていただいたり、体験入居等を行うなど、契約の際には、ご家族にもゆっくりと理解していただき納得を得た上で同意をえるようにしている。		利用者様のご家族の立場になり見学時より、十分な説明を行っている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月一回介護相談員の方に来ていただき、入居者様の言葉や態度を見ていただき生の声を出しやすい機会を作っている。		病院受診、墓参り、散歩と利用者様と一緒にいる機会をつくり本当の声を聞く時間をつくっている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月請求書の中に近況状況を報告したり、面会時に状況をお伝えしている。面会が遠のく場合は、電話で連絡を取ったりしている。 (外部評価) 面会時に利用者の近況をその都度報告している。また、面会が少ない場合は電話をかけたり利用者と一緒にはがきを書いたりして連絡している。さらに、請求時に手紙を入れて利用者の様子を知らせている。「ホーム便り」も年4回発行している。	※	相手に温もりが伝わるように直筆の手紙を書いて同封したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員の研修参加によりサービスに少しでも反映できるよう、面会者のデーターをとり、より多くの方にも来てもらえ要望や意見の出しやすい雰囲気に取り組んでいる。 (外部評価) 面会時に意見や要望を出してもらっている。重要事項説明書に苦情の受付窓口を、ホーム内と第三者委員に分けて明記している。また、苦情受付ボックスも設置している。家族から出された要望は職員会等で検討し対応している。	※	一ヶ月毎に面会者状況のデーター集計をしグループホームの面会利用を知って頂いている。面会時に出された意見、要望はカンファレンスや職員会の時に検討している。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見を出しやすいようにBS法を利用して皆の意見を聞くように気をつけている。不満や苦情は言いがたいのでPCでのメールを使用できるようにしている。		半期毎に業務能力適格性評価シートにて自己評価と部署長評価を行っているが全員と面談をもうけることがまだ出来ていないので、日頃から、聞きやすい雰囲気にして行きたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 2ユニットある為、管理者は状況に応じた対応が出来るように通常のシフトになるべく入れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係づくりに取り組んでいたが、開設4年目となり職員の離職の原因にも人間関係があった為、異動をおこなってみた。 (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大事にしているが、やむを得ず異動することもあり、利用者へのダメージを防ぐため、ユニット間を移動したり、一緒にいる時間を長くしたりして利用者が気分転換できるよう支援している。	※	夜勤時、両フロアーで応援したり各勤務中にフロアーの利用者がお互いを行き来している為、職員にも少しは、挨拶を交わしたり言葉がけなどもできている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修参加後は、職員会で必ず伝達講習をおこない皆が受講できなくても報告の機会を作っている。資料作成もしていただき教育内容の有効性評価も行っている。 (外部評価) 管理者が職員の資格取得のために問題を作成する等支援している。また、職員は研修情報を見て希望する外部研修に参加し、職員会で伝達講習し全職員で研修内容を共有している。		研修情報は、出勤簿のところに掲示案内し管理者からも職員の経験や習熟度の段階により声掛けし研修参加をしているが職員の研修プログラムはまだ完成していない。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県GH連絡協議会に入会し研修などには参加し事業者同士協同しながら質の向上に励んでいる。しかし、交流会等の実施は出来ていない。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加している。情報交換はしているが、悩みを相談する等の時間は持っていない。	※	地域のグループホームと交流会を検討中ではあるが、まだ実施されていない。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務中少しではあるが、利用者様と離れ雑誌や本を読む休憩室をつくっている。	※	院内でのレク活動はあるが、他事業所との親睦会は実施できていない。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 開設4年目となり、職員の資格取得に向けた支援を行っている。	※	取得後は本人の意向を重視しながら活かせる環境作りに努めるよう努力している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学时、ご家族と相談の上体験入居を半日から実施し、不安を解除しながら職員が受け入れられるような関係作りに努めている。		入居前の生活状態を把握する為、家を訪問させていただいたり、通所サービスなどを利用している時は、見学するなど事前情報をしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) あくまでも見学から来所していただき、訪問からすぐ入居とはしていない。又、雰囲気や家族の思いをしっかりと伺える時間をとっている。		他の事業所への紹介も行いご家族、利用者様自身の思いを大切にご家族が求めている所か確認して関係作りに努めている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談の上、ご家族の要望や早急な対応が必要であるのか判断し対応を行っている。	※	相談時、利用者様やご家族の必要とされている支援を確認し、MSWや担当ケアマネと連携をとっている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学を兼ね入居者とお茶を飲んでいただいたり、担当のケアマネとも何度か情報交換を行い、ご家族も納得され安心して利用できるように心掛けている。 (外部評価) 入居希望者に見学に来てもらっている。さらに、1～2日の体験入居により徐々に馴染めるよう配慮している。	※	見学の際は、担当のケアマネやご家族、サービス利用者は利用サービス職員等もいっしょに見学して頂いている。やむを得ず利用となた場合は、慣れるまでご家族に面会に来ていただいたり、以前利用のあったサービス提供職員にもきて頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、人生の先輩として敬い利用者の出来ること大切に場面ごとに、生活の場の中に入れて生活している。 (外部評価) 料理や掃除等を一緒にしながら、利用者から味付け等教えてもらっている。利用者それぞれの人生観、昔の話や歌を聴き、共感している。	※	若い職員等は巻き寿司がきれいにできず台所で困っていると、必ず利用者が手伝い教えてくれる。この気持ちを大切にいい関係を築いて行きたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会等で来て頂いた時に利用者といっしょに作ったおやつを食べていただいたり、夜間の利用者の状況などお伝えしている。		利用者様のご家族の方への思いを大切に職員もご家族と同じような思いで支援して行く関係を築きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族の都合や利用者様の思いを伝え、外出や外泊をによりご家族と一緒に過ごすこともされている。中には旅行もされているご家族もある。	※	年賀状は、利用者様からご家族へ送っている。字が書けない人は、ちぎりえや塗り絵など何らかの工夫によりご家族へ送っているが高齢化となって来ているだけに現状維持が心配される。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎日墓参りへ出かけたり、行きつけの美容室を利用されたりと利用者の生活習慣を尊重している。	※	地元のサロンへ出かけたり、知人の面会があったりと馴染みの関係を大切に、時には職員と一緒に地元のドライブを楽しまれる。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 畳ベンチを置いたり、ソファを置くなど、利用者同士の関係が持てるようフロア内の環境作りを工夫している。		食事やお茶の時は、会話を取りやすいように机の配置を工夫したり、お互いの役割も忘れずテーブルごとに参加しやすい雰囲気に気をつけている。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 遠方へ移られた方は、手紙のやり取りにて近況報告をしている。近くの老健へ入所された方は、面会へ出かけたりしている。	※	在宅へ戻られた方は、利用されるサービス現場へ面会に出かけたりして交流関係を続けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様とのかかわりの中で、言葉や表情から悟ったり、会話の中から真意を推し測ったりしながら、確認をするようにしている。 (外部評価) 介護相談員に来てもらったり、利用者と一緒に外出する機会に利用者の思いを会話の中から把握している。帰宅願望がある利用者と共に自宅訪問した時には、庭の草や柿の木が気になっていたと喜ばれたこともある。	※	一部の意見や考え方で決め付けぬよう職員全員が利用者様の思いや意向を把握しようと努力している。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時や以前利用されたサービス担当者からも少しずつ把握している。本人の前では決して聞くようなことはしていない。	※	ご家族だけではなく、関わってきていただいた方にも協力をお願いし情報をいただいている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者様の安心と安全を保ち支援していくように努めているが、出来る能力を衰えさせぬよう気をつけている。		わからないと決め付けず、一緒に行動しその中から感じ取るように利用者様のその人らしさを追及している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様には、日々のかかわりの中で思いや意見を確認したり、ご家族の方には来所時や面会時に反映させるようにしている。 (外部評価) 利用者からは暮らしの中で希望を聞き、家族等からは面会時に話し合い、利用者一人ひとりに合った介護計画を全職員で意見交換しながら作成している。	※	ケースカンファレンスは職員全員で意見交換をしているが、ご家族にも参加できるようなカンファレンスを今後検討したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 利用者様の状況変化に伴ない見直しを臨機応変に行い、ご家族の要望が変わった場合も見直し検討している。 (外部評価) 月1回介護計画の評価を全職員で行い、見直している。また、状態変化や家族の要望に応じても随時見直ししている。利用者の個別記録に事実のみを記入するのではなく、状態変化の原因等についても記述し、見直しに役立てている。	※	利用者様やご家族の要望を確認しているが、高齢でもあり、予防を考え対応することも必要と検討中である。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様の個別の処遇記録に記載し情報共有している。又、これを基に見直し評価につなげている。	※	処遇記録を状況・対応・結果と記載を実施して来たが、介護計画に沿ったケアの実践につなげる様勉強会を実施し記載方法を変えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者様の支援はもとより、状況に応じた対応が出来、満足をもてるよう努力している。 (外部評価) 通院介助や墓参り、ふれあいサロンに同行する等利用者の個々の要望に応じて支援している。		個別の墓参りや病院への受診への援助を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者様が安心して暮らし続けられるよう民生委員、公民館、消防等協力を呼びかけている。	※	警察の方とは、未だ意見交換をする機会を設けていない為、今後検討必要である。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者様もお弁当を取ったり、うどんを食べに外出したりと希望に応じて、支援を行っている。		サロンへの参加は行っているが、インフォーマルな生活支援は出来ていない。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されたが、まだ関係は強化できていない。	※	会議の参加だけで、情報交換はできていない。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院であるが、ご家族の希望される病院へ受診されている。 (外部評価) 利用者や家族等の希望するかかりつけ医を受診しており、家族と協力しながら通院介助している。投薬等のため月1回受診しているが、結果は受診記録にまとめ、受診時の利用者の言葉等も記載している。		ご家族と相談し受診時通院が必要な場合は援助している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 入居当初より、診察されている医師に相談している。		母体の病院の医師が、開設当初より診察を継続して下さっている。予防注射なども実施していただいている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態把握に留意している。		看護職員が不在の時は、携帯での指示を介護職員に行っている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時、早めに医師とご家族と相談し可能な限り、早めの退院としている。		環境を変えてしまうと利用者も大変なので、頻繁に見舞いに行ったりしている。昨年は入院は2名だけであった。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 事業所内では、どう対応するのか方向性を定めている。 (外部評価) 看取りの指針を決め、運営者と全職員で共有しているが、利用者及び家族等と方針についての具体的な話し合いには至っていない。	※ ※	高齢であり、今後きちんと意志確認書を作成したい。 職員の看取り介護の技量を高め、利用者や家族の意向を確認した上で、終末期に向けた方針を明確にしておくことが望まれる。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 急変時すぐに対応して頂けるよう、医療機関とも連携をとっている。	※	ご家族の意向をきちんと確認したい。母体が病院の為、ご家族は安心されている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 在宅へ帰る際には、外泊やケアマネとも情報交換し連携を心がけた。		在宅での利用サービス担当者とともにカンファレンスを行い、介護の継続性の援助を実施してみた。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員の意識付けも大切にし、利用者様の誇りやプライバシーを傷つけない対応に各フロアのリーダーが確認を実施している。 (外部評価) 職員は、利用者は人生の先輩であるという気持ちを持って、丁寧な言葉かけをしており、トイレ誘導もさりげなく行っている。		トイレ誘導もさりげない言葉かけによりケアを実施している。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 誕生日には、利用者様にお好みメニューを確認し自分で決めている。		食事時も朝のパン食・和食としたり食事にも牛乳、お茶、緑茶とすきな飲み物を頂いている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行事参加は自由意志とし、フローア、居室等日中も各自のペースで過ごしている。 (外部評価) 時間的に夕食準備頃不穏になることが多いが、業務を優先するのではなく、利用者の気分転換を図ることを優先している。		食事時間も欲しくない時は、お腹の空いた時に摂取していただいている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の習慣に合わせ衣服は調整していただいている。化粧やマニキュア等も楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの美容室へも外出している。		着替えは各自がコーディネートしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と共に野菜切り、調理、盛り付け、片付け等個々が参加しやすいように声掛けしながら、楽しい食事作りの雰囲気作りを大切にしている。 (外部評価) 食事の準備、盛り付け、後片付け等利用者と一緒にしている。食事中は、食事の準備に対する感謝の言葉かけや料理についての会話を楽しんでいる。一方のユニットでは、朝食に洋食を希望する利用者があるため、和食と洋食を選択できるようにしている。		時にお弁当を配達していただき、目先の食事の変化をつけている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 馴染みの嗜好品を取り入れるよう夜に飲んで頂いたり、季節時に梅酒や山イチゴ酒杏酒をつけて夕食時楽しんでいる。	※	タバコを吸う人は利用者の中にはいらっしゃらないので、今後検討する。
56		○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、失敗してもオムツをつけない。		ご家族にもお願いし、着替えを多めに用意していただいている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望があればいつでも入浴できる様に対応している。 (外部評価) 家庭的な浴槽で、身体機能の低下を補うよう手摺りが付けられている。基本的には週3回であるが、美容院でカットした時など、入浴希望があればいつでも入浴できる。入浴日でないときも他ユニットの浴室を利用する等臨機応変に対応している。		仲の良い方同士で、一緒に入浴される時もある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の面会や外出等個別の状況に応じ配茶やマッサージなど工夫をしている。	※	寝つきが悪い時は、添い寝をしたり足浴を行うなど、個々に応じた対応をとっている。今後フットケアを取り入れたい。
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 長年の経験を生かし、餅つき、干し柿作り、かんころ作り、らっきょ漬けなど個々の力を発揮できる場面作りをし、日頃から感謝の言葉がけを忘れない。 (外部評価) フラワーアレンジメント、漢字ドリル等その人の能力や興味に応じてレクリエーションを楽しんでいる。また、経験を活かして巻き寿司や餅つき等の行事などでも活躍の場面がある。	※	それぞれの場面で、その人らしい姿があり面会時や家族会、お便り等でご家族と共に喜びを分かち合っている。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族よりお金を預かり、買い物時は自分で支払いを出来るようお金を手渡している。		移動パン屋の来所時、利用者様が選んで好みのパンを購入したり、受診時会計したりとできることを忘れさせず、頑張っている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩やドライブ、六地藏参り、周辺散策等天候と利用者様の状態を確認し屋外への外出に努めている。 (外部評価) ホームの前は坂道であるが、筋力低下防止のため散歩に出かけ、近所でつくし取りや栗拾い等自然に触れ合っている。また、車で買い物に出かけたり墓参りに行ったりしている。	※	夕方の墓参り、自宅へ帰ったり買い物へ出かけ心身の活性につながるよう努力している。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と相談し利用者の思いを実現に結びつけるよう努力している。		高野山への旅行や世界洋蘭展への外出と体調を見ながら、医師にも外泊確認をとりご家族等と相談しながら計画を実現している。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 遠方の家族へ電話をかけたリ、毎年賀状をご家族へ送る等、利用者様の希望を支援している。	※	手紙がかけない時は、差出人の名前やちぎり絵をして工夫するなど出せるような支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間は定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のよい時間に訪ねて頂ける様な配慮を行っている。	※	他の利用者に気兼ねなく訪問できるスペースを作り、気軽に来やすい雰囲気作りに心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の理解を深める為に、研修会や職員会での勉強会、新聞記事の記載を朝礼時に読み上げたりし職員で共有認識を図っている。	※	何が身体拘束につながるか、カンファレンスや日々の申し送り時に各自のケアを顧みている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけていない。夜間は、防犯の為施錠しているが、連絡すれば訪問することができる。 (外部評価) 日中は鍵をかけていない。利用者の外出は、両ユニットの玄関が中央の事務室から見えるため常に把握でき、声かけをして同行している。夜間は防犯のため施錠している。		利用者様が外出しそうな時は、止めず一緒に声かけし外出する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) カウンターより入居者様のお部屋は見えるようになっている。		夜間は2時間毎位に利用者様の様子を見守っている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 全てを取り除くのではなく、利用者様の状況に応じたケースの対応をとっている。又、カッター等の物はフロアーの机の中に保管している。		裁縫道具やはさみは、入居者様のお部屋で使用されている。個人管理である。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々、業務上ヒヤリハットを記録し職員間の共有認識を図っている。職員会での報告や院内のリスクマネジメント委員会にも参加され事故防止にも取り組んでいる。		PCにヒヤリハット報告を載せ、職員も予想される危険の検討や未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急蘇生法を入職時、実施している。	※	定期的な訓練で活かせる技術を身に付けさせるよう勉強会を計画中である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアル作成し火災訓練は、年2回実施している。 (外部評価) 災害対応マニュアルを作成し、年2回昼と夜の想定で火災時の避難訓練を実施している。防火袋に非常食等を入れ、用意している。また、非常時には近隣の関連施設の応援を頼んでいる。地震や水害時の避難訓練はまだ実施していない。	※	地震を想定した訓練は、できていない。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 日常生活行動は利用者様本人の意思で自由に活動している。表情も穏やかで面会時間も自由な為、いつでもご家族に見てもらっている。	※	行動制限をしてしまうと、その人らしさを失う事にもなりかねない為、面会時にも予想されるリスクは説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) カンファレンスにより普段の状況を職員は把握しており、処遇記録にも状況・観察点根拠・対応・結果と記録しており、異常時は速やかに医療受診につなげている。		両フロアーの職員が各勤務帯でお互いの情報の共有化をはかり事業者日誌へ記載している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬表をファイルに整理し職員が内容を確認しやすいようにしている。服薬時は、本人に手渡し内服の確認を行い服薬チェック表に配薬者のサインを記載している。毎食後、テーブルの下に薬が落ちていないかも配薬者が確認している。		配薬量が変わった場合は、受診記録を参考にさせていただき職員の確認サインを記載している。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材の工夫や水分チェック表により摂取状況の把握に努め、調理にも食べやすい工夫をしフロアーではミネレクの実施、又毎朝体操を行う等運動も行っている。		カスピ海ヨーグルトを毎日作り、繊維質の多い食材と果物を採り入れている。又、散歩や家事活動、レク等の参加により排便できるよう工夫している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを行い能力により不可能な方は、職員の介助にて実施されている。又、義歯の消毒や歯ブラシの消毒等清潔保持に留意している。		歯磨きが難しく、うがいの出来にくい利用者へはお茶を利用し口腔内のケアを支援している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的に医師にも相談し、水分チェック表を利用し個別の摂取量を把握し、栄養面では、管理栄養士の献立により専門的なチェックを行って頂いている。 (外部評価) 関連病院の管理栄養士が献立を立てているため、栄養バランスは良い。水分確保に留意し、水分摂取量は細かくチェック表に記載し、食事の際にもお茶のお代わりを勧めている。	※	食事内容・残渣量は、事業所日誌に記録され食事中の水分の噎せがある場合は、ゼラチンや寒天を使用し工夫を実施している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症情報は、保健所とPCで配信し常に情報確認を行っている。朝礼時や職員へのメール職員会等連絡を確実にし早期対策をとり勉強会を行う等感染対策に努めている。	※	利用者へは食事前のうがい手洗いの励行やインフルエンザ予防注射の実施と職員共に予防に留意して来た。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板・布巾等は毎晩漂白し、冷蔵庫の掃除・点検も実施し清潔・衛生に心がけている。食材の納品時の温度と調理時の温度を検温している。		食品温度記録表を活用し日々の衛生管理には留意している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花や鉢植えを置き、表札はよく見え落ち着いた雰囲気を出している。		入り口には手作りの看板やプランターを置いて季節感を感じられるようにしている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの花をテーブルに飾ったり、フローアから台所を見えやすい環境作りをするなど工夫している。 (外部評価) 台所は南側に面し、明るく作業しやすい。吹き抜け部分には家族の協力を得て花壇が作られ、巣箱には野鳥がやってくる。廊下は広く、押し車や車いすが楽に移動できる。視界を遮らない家具の配置で、安全確認しやすい。季節の花が多く飾られている。		食事の際は、馴染みの汁椀を使用したりコーヒーのカップも使い慣れたものを使用させていただいている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各所にベンチやソファ等をを設け自由に利用している。見えそうで、見えない隠れたスペースも作り配慮している。		廊下やフローアには、絵や写真を飾り椅子や畳ベンチ、お茶と自由に居場所作りをしている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや仏壇、テレビ等を設置し馴染みの物を設置している。 (外部評価) 神棚、箆笥、パイプハンガー、テレビ、歌手のポスター、利用者の似顔絵、家族の写真等それぞれの利用者が、思い思いの居心地の良い居室をつくっている。また、居室の前には木製の表札が掛けられている。		好きな歌手のポスターや家族との写真を飾る方もおられる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気には常時配慮して、窓の開閉、換気扇の利用を行っている。エアコンは常に利用者の様子を見て調節している。		喘息などの既往のある利用者は、冬場の湿度は加湿器を利用し調整される方もおられる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 食事の際には、座高を考慮しテーブルや椅子の高さに気をつけ座布団などでも調整している。フローアーにも利用者の状態に合わせた椅子を置いている。		トイレ・浴室・廊下には手すりをつけ足元が不安定な方への安全確保を配慮している。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 洗面所・トイレなどは、表示板を工夫して作成し戸惑いを起こさない様にしている。		掃除には、ほうきやちりとりを使用したり、バケツ雑巾などを利用し行っている。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先に花を植えたり、ベンチで休憩を取れるよう工夫したり、畑を耕したりと馴染みの暮らしを活かした環境作りを行っている。		フローアー中央に庭を造り、巣箱や野菜・お花を作り自然にもふれて頂ける様工夫している。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	完全には理解できていないし、本当にそう思われているのかもわからない。しかし、日々コミュニケーション・スキンシップと共にされ、理解しようと努力はしている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	お茶の時間やおやつ時間、食事を同じテーブルで和やかに過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居室は、各個室を設け廊下には畳ベンチやリビングにはソファや個人の馴染みの椅子を置くなど好きな場所で、自由に過ごすことが出来ている。又、何事も強制せず、利用者の自己決定を尊重している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居当初は、表情も陰しかったが穏やかになり家族の方も良い表情になったと喜ばれている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	年齢と共に、下肢の筋力の衰えも見られるが車を利用したり、体力と不穏の状況でなるべく出かけるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	母体が病院である為、体調が悪くなるとすぐに受診が可能である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常の会話の中で、テレビ番組・外出先・食べたい物等の聞く場面を作っている。建物の2階なので、外出しやすいとは言えないが、玄関にベンチを設置したり、手すりを付けて安全対策をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会は自由であり、訪問の際には最近の状況をお伝えしている。一緒にお茶を飲んでいただいたりゆったり過ごしていただいている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	ボランティアのコーラスやエレクトーンの演奏など来て頂いたり、サロンへの参加を行ったり、支援事業所のケアマネの面会がある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 <u>2</u> 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域での催し物がある時は、声掛けをしていただいたり、参加できそうな事がある時は、案内のパンフレットを頂くこともある。 納品業者が来所されても、フロアー内へ荷物を運んでくれたりお茶を飲んで帰って頂くなど、以前よりはフロアー内へ足を運んでくれるようになった。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 <u>2</u> 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	研修への参加の偏りにならぬ様、研修計画書はないが参加実績をみて参加の予定を立てている。他事業所との職員の交流は計画中だが、実施は出来ていない。 職員とのコミュニケーションにも気をつけているが、会議などでも誰もが意見を言えるように司会をローテーションしたりと工夫している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 <u>2</u> 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の顔を見ていただいたら、わかると思うが本当にゆったりと過ごされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 <u>2</u> 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	職員は利用者様個々を尊重し、誇りを大切にしている。言葉掛けや対応、態度にはきちんと対応している。苦情報告も今のところない。 面会も毎日見られる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

「その人らしい生活」を送る為には、食事・睡眠・排泄等の基本的欲求が満たされていることが必要不可欠であり、これらに関与する混乱を克服することが解決の第一歩と考えられます。

私たちグループホームいしかわでは、利用者様の個別の排泄パターンを確立する為に、水分チェック表・排泄チェック表を利用することにより排泄パターンを確立しオムツをなるべく使用しないように職員一同取り組んでいます。

コミュニケーションの取り難い利用者様もおられますが、個別の処遇記録を生かして、並みならぬ根気と優しさをもってかかわりを持続しています。ケアする者のあきらめのない気持ちを維持し「その人らしい生活」を日々追及しております。

尚、認知の進行を遅らせる為にも併設の保育所園児との交流も取り組んで来所していただいたらお解かりとは思いますが素敵な笑顔でいっぱいです。